

付着生物ラーバ情報

サンカクフジツボの付着は少ない見込み

1 ラーバの出現状況

ラーバの調査地点は図1、出現数は表1のとおりです。

(1) サンカクフジツボ

付着直前のラーバが9月2日に久栗坂沖で2.8個体/m³、川内沖で2.3個体/m³見られました(表1、図2、3)。

(2) ユウレイボヤ

ラーバは見られていません(表1)。

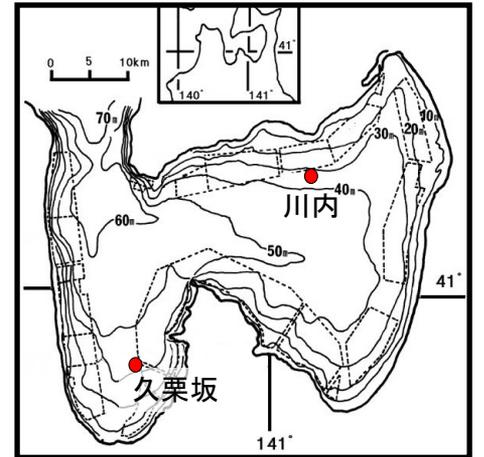


図1 ラーバ調査地点

調査地点	調査月日	サンカクフジツボ	ユウレイボヤ
久栗坂沖	R3.9.2	2.8	0.0
川内沖	R3.9.2	2.3	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

2 今後の見込み

(1) サンカクフジツボ

付着直前のラーバ(図2)が出現のピークを迎えています(図3)、過去2年に比べてかなり少ないので、今後の付着は少ない見込みです。

殻長1mm未満の小さいサンカクフジツボは稚貝分散時に選別機を用いることで約7割落ちることが分かっている(図4)、ラーバ出現が終息するまで分散作業を控えましょう。

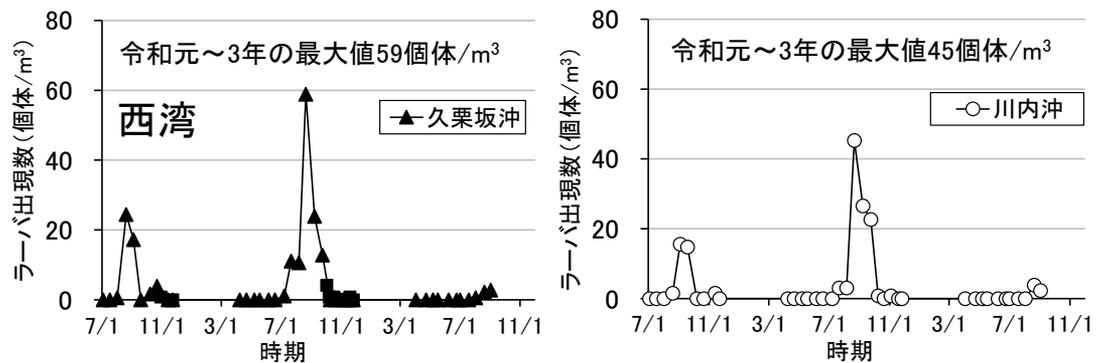


図3 サンカクフジツボラーバ出現数の推移(令和元年7月~令和3年9月)

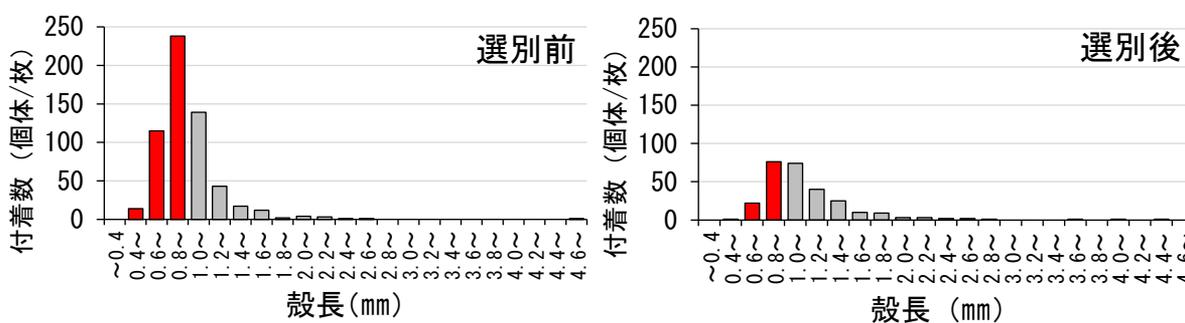


図4 令和2年9月の久栗坂沖における選別前後の稚貝1枚に付着したサンカクフジツボの付着数(左は選別前、右は選別後)



図2 付着直前のサンカクフジツボラーバ(キプリス幼生)

(2) ユウレイボヤ

現在、陸奥湾内の中層の水温は23℃前後となっています。ユウレイボヤは水温20℃以下で産卵するので、10月以降に本格的なラーバの出現と付着が始まるものと思われます。

